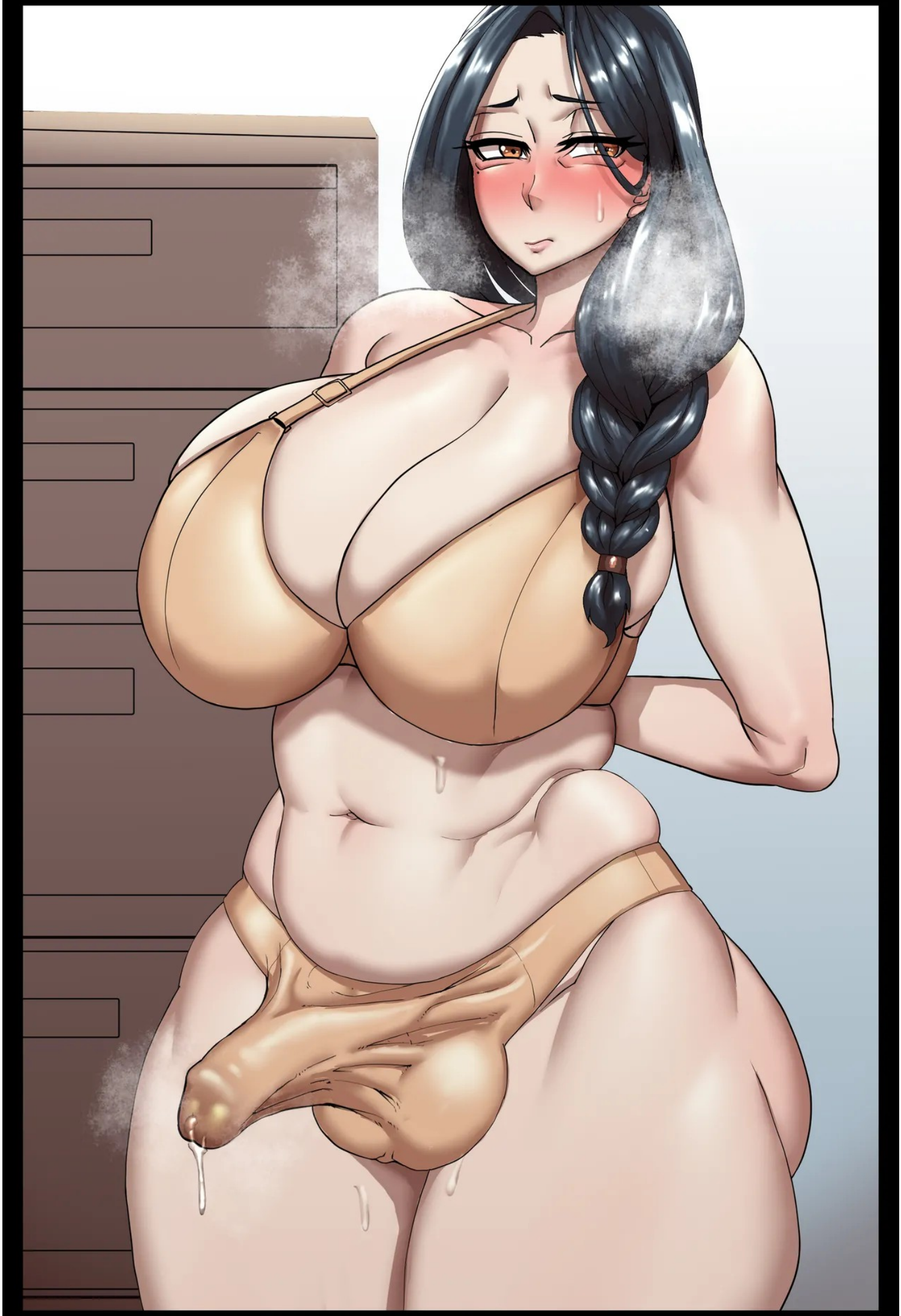



「ちょっと！着替え中なんだから声ぐらい掛けなさい！」
ギュッ!!
むちっ♥
「ごめんよママ…ママのおちんぽみるくの味が恋しくてまたいっぱい飲みたくなっちゃったんだ…」
「え～！？またなの！？今週の分は昨日飲ませて上げたでしょ！自分のザーメンをペットボトルの蓋にでも注いで飲んだらどう！？」
むちっ♥
「ママのおちんぽみるくじゃないと飲みがいがないよ～！ママが必死にセンズリこいてひり出したおちんぽみるくが飲みたいんだよ～！」


「あっ！ママ勃起してるよ！ママのおちんぽがパンツを突き破りそうだよ！」
「あんたがじろじろいやらしい目で見てくるからでしょ…♡」
「ああっ！ママの雄臭いふたなりちんぽの臭いがぷんぷんしてきたよ！やっぱり昨日の量じゃシコり足りなかったんだ！いつもよりせーしが薄かったもん！！」
（まったく…いつになったらザーメン離れできるのかしらうちの息子は…）
ギチッ
ギチッ
パツッ
トロ…


「まったく…今回だけよ…」
「うわぁぁ！ママすごいエロい身体してるよぉ！おちんぽみるく吐き出させるための身体してるよぉ！！」
「こらっ！おちんぽが喜ぶようなこと言うんじゃありません！！下のお口から直接飲ませてあげてもいいのよ！？」
「ママの方がノリノリじゃないかぁ…」
ぼろんっ♡
ぶるるんっ♡


「じゃあこの中にザーメンぶちまければいいのね？」
「うん！思う存分だしてね！！」
「お腹壊しても知らないわよ？ママはもう制御できませんからね！」
アハッ
「お願い！あと片付けはしっかりするから気にしなくていいよ！」
ブルッ
「あんたもおちょこでもお箸入れでも持ってきておちんぽシゴきなさい♡オスの惨めなちんぽみながらシコると優越感でいっぱい濃いの出せるから♡♡♡」
ぷるんっ
ぷるんっ


「あら？あんたもジョッキ？こんにゃくでもつめてオナホにでもするの？♡」
「うぅ…でもこれしかなかったから…しょうがなく…」
「私はあんたのそういう負けず嫌いなところ嫌いじゃないわよ♡」
「ほらほら♡もっと必死にシコシコしなさい♡私が一回射精する度にあんたは10回ぐらい射精し続けなきゃ到底敵わないんだから…♡」
フーッ
フーッ
シコシコ
シコシコ
シコシコ


「おっっ♡♡くるっ♡♡♡せーしのぼってくるっ!!
息子のオナニーみていつもより濃いザーメン
コキ出しちゃうっ♡♡」
「あぁっ…ママ…ママ…出るっっっ♡」
「お〜♡やっぱり
しょぼいオスチンポの
射精みながらする
アクメは格別だわぁ…♡
しかも実の息子…♡ちんぽは
お父さん似ね…♡」
「うっっ…♡うっ…♡」
パチッ
パチッ
ハッ
ハッ
ビクンッ
キュッ
キュッ
ドピュッ
ドピュッ
ガク
ガク
ビクンッ


「ほらほら♡数回の射精でもうこんなにパンパンになっちゃったわ♡
あんたも私の息子なら
これぐらいいつでも
射精せるようにしておき
なさい♡♡♡」
「ママァ…♡僕もうおちんぽ
みるく出せないよぉ…」
もわぁ…
ニャ
ニャ
ハーハー
「弱気より先にザーメン出しなさい♡
まさか人に厚かましくせがんでおいて自分は
射精さないなんてわがまま、
通ると思ってないわよね？♡」
「早く射精しないとこのザーメンジョッキ先に飲んじゃうわよ♡」
「ひぃぃ…僕のおちんちん壊れちゃうよぉ…♡」
とろ…
シコ
シコ
シコ
シコ


「ちょっと！着替え中なんだから声ぐらい掛けなさい！」
ギョッ!!
「ごめんよママ…ママのおちんぽみるくの味が恋しくてまたいっぱい飲みたくなっちゃったんだ…」
「え～！？またなの！？今週の分は昨日飲ませて上げたでしょ！自分のザーメンをペットボトルの蓋にでも注いで飲んだらどう！？」
むちっ♥
むちっ♥
「ママのおちんぽみるくじゃないと飲みがいがないよ～！ママが必死にセンズリこいてひり出したおちんぽみるくが飲みたいんだよ～！」


「あっ！ママ勃起してるよ！ママのおちんぽがパンツを突き破りそうだよ！」
「あんたがじろじろいやらしい目で見てくるからでしょ…♡」
「ああっ！ママの雄臭いふたなりちんぽの臭いがぷんぷんしてきたよ！やっぱり昨日の量じゃシコり足りなかったんだ！いつもよりせーしが薄かったもん！！」
（まったく…いつになったらザーメン離れできるのかしらうちの息子は…）
ギチッ
ギチッ
パツッ
トロ…


「まったく…今回だけよ…」
ぼろんっ♡
「うわぁぁ！ママすごいエロい身体してるよぉ！おちんぽみるく吐き出させるための身体してるよぉ！！」
「こらっ！おちんぽが喜ぶようなこと言うんじゃありません！！下のお口から直接飲ませてあげてもいいのよ！？」
ぶるるんっ♡
「ママの方がノリノリじゃないかぁ…」


「じゃあこの中にザーメンぶちまければいいのね？」
「うん！思う存分だしてね！！」
「お腹壊しても知らないわよ？ママはもう制御できませんからね！」
アハッ♡
「お願い！あと片付けはしっかりするから気にしなくていいよ！」
ブルッ♡
「あんたもおちょこでもお箸入れでも持ってきておちんぽシゴきなさい♡オスの惨めなちんぽみながらシコると優越感でいっぱい濃いの出せるから♡♡♡」
ぷるんっ♡
ぷるんっ♡


「あら？あんたもジョッキ？こんにゃくでもつめてオナホにでもするの？♡」
「うぅ…でもこれしかなかったから…しょうがなく…」
フーッ
フーッ
「私はあんたのそういう負けず嫌いなところ嫌いじゃないわよ♡」
「ほらほら♡もっと必死にシコシコしなさい♡私が一回射精する度にあんたは10回ぐらい射精し続けなきゃ到底敵わないんだから…♡」
シコシコ
シコシコ
シコシコ


「おっっ♡♡くるっ♡♡♡せーしのぼってくるっ！
息子のオナニーみていつもより濃いザーメン
コキ出しちゃうっ♡♡」
「あぁっ…ママ…ママ…出るっっっ♡」
「お～♡やっぱり
しょぼいオスチンポの
射精みながらする
アクメは格別だわぁ…♡
しかも実の息子…♡ちんぽは
お父さん似ね…♡」
「うぅっ…♡うっ…♡」
パチッ
パチッ
ハッ
ハッ
ビクンッ
ビクンッ
キュッ
キュッ
ドピュッ
ドピュッ
ガク
ガク
ビクンッ


「ほらほら♡数回の射精でもうこんなにパンパンになっちゃったわ♡
あんたも私の息子なら
これぐらいいつでも
射精せるようにしておき
なさい♡♡♡」
「ママァ…♡僕もうおちんぽ
みるく出せないよぉ…」
もわぁ…
ニャ
ニャ
ハーハー
「弱気より先にザーメン出しなさい♡
まさか人に厚かましくせがんでおいて自分は
射精さないなんてわがまま、
通ると思ってないわよね？♡」
「早く射精しないとこのザーメンジョッキ先に飲んじゃうわよ♡」
「ひぃぃ…僕のおちんちん壊れちゃうよぉ…♡」
とろ…
シコ
シコ
シコ
シコ


「ちょっと！着替え中なんだから声ぐらい掛けなさい！」
ギュッ!!
むちっ♥
「ごめんよママ…ママのおちんぽみるくの味が恋しくてまたいっぱい飲みたくなっちゃったんだ…」
「え～！？またなの！？今週の分は昨日飲ませて上げたでしょ！自分のザーメンをペットボトルの蓋にでも注いで飲んだらどう！？」
むちっ♥
「ママのおちんぽみるくじゃないと飲みがいがないよ～！ママが必死にセンズリこいてひり出したおちんぽみるくが飲みたいんだよ～！」


「あっ！ママ勃起してるよ！ママのおちんぽがパンツを突き破りそうだよ！」
「あんたがじろじろいやらしい目で見てくるからでしょ…♡」
「ああっ！ママの雄臭いふたなりちんぽの臭いがぷんぷんしてきたよ！やっぱり昨日の量じゃシコり足りなかったんだ！いつもよりせーしが薄かったもん！！」
（まったく…いつになったらザーメン離れできるのかしらうちの息子は…）
ギチッ
ギチッ
パツッ
トロ…


「まったく…今回だけよ…」
ぼろんっ♡
「うわぁぁ！ ママすごいエロい身体してるよぉ！おちんぽみるく吐き出させるための身体してるよぉ！！」
「こらっ！おちんぽが喜ぶようなこと言うんじゃありません！！下のお口から直接飲ませてあげてもいいのよ！？」
ぶるるんっ♡
「ママの方がノリノリじゃないかぁ…」


「じゃあこの中にザーメンぶちまければいいのね？」
「うん！思う存分だしてね！！」
「お腹壊しても知らないわよ？ママはもう制御できませんからね！」
アハッ
「お願い！あと片付けはしっかりするから気にしなくていいよ！」
ブルッ
「あんたもおちょこでもお箸入れでも持ってきておちんぽシゴきなさい♡オスの惨めなちんぽみながらシコると優越感でいっぱい濃いの出せるから♡♡♡」
ぷるんっ
ぷるんっ


「あら？あんたもジョッキ？こんにゃくでもつめてオナホにでもするの？♡」
「うぅ…でもこれしかなかったから…しょうがなく…」
フーッ
フーッ
「私はあんたのそういう負けず嫌いなところ嫌いじゃないわよ♡」
「ほらほら♡もっと必死にシコシコしなさい♡私が一回射精する度にあんたは10回ぐらい射精し続けなきゃ到底敵わないんだから…♡」
シコシコ
シコシコ
シコシコ


「おっっ♡♡くるっ♡♡♡せーしのぼってくるっ!!
息子のオナニーみていつもより濃いザーメン
コキ出しちゃうっ♡♡♡」
「あぁっ…ママ…ママ…ママ…出るっっっ♡」
「お〜♡やっぱり
しょぼいオスチンポの
射精みながらする
アクメは格別だわぁ…♡
しかも実の息子…♡ちんぽは
お父さん似ね…♡」
「うぅっ…♡うっ…♡」
パチッ
パチッ
ハッ
ハッ
ビクンッ
ビクンッ
キュッ
キュッ
ドピュッ
ドピュッ
ガク
ガク
ビクンッ
ビクンッ


「ほらほら♡数回の射精でもうこんなにパンパンになっちゃったわ♡
あんたも私の息子なら
これぐらいいつでも
射精せるようにしておき
なさい♡♡♡」
「ママァ…♡僕もうおちんぽ
みるく出せないよぉ…」
もわぁ…
ニャ
ニャ
ハーハー
「弱気より先にザーメン出しなさい♡
まさか人に厚かましくせがんでおいて自分は
射精さないなんてわがまま、
通ると思ってないわよね？♡」
「早く射精しないとこのザーメンジョッキ先に飲んじゃうわよ♡」
「ひぃぃ…僕のおちんちん壊れちゃうよぉ…♡」
とろ…
シコ
シコ
シコ
シコ


「ちょっと！着替え中なんだから声ぐらい掛けなさい！」
ギョッ!!
「ごめんよママ…ママのおちんぽみるくの味が恋しくてまたいっぱい飲みたくなっちゃったんだ…」
「え～！？またなの！？今週の分は昨日飲ませて上げたでしょ！自分のザーメンをペットボトルの蓋にでも注いで飲んだらどう！？」
むちっ♥
むちっ♥
「ママのおちんぽみるくじゃないと飲みがいがないよ～！ママが必死にセンズリこいてひり出したおちんぽみるくが飲みたいんだよ～！」


「あっ！ママ勃起してるよ！ママのおちんぽがパンツを突き破りそうだよ！」
「あんたがじろじろいやらしい目で見てくるからでしょ…♡」
「ああっ！ママの雄臭いふたなりちんぽの臭いがぷんぷんしてきたよ！やっぱり昨日の量じゃシコり足りなかったんだ！いつもよりせーしが薄かったもん！！」
（まったく…いつになったらザーメン離れできるのかしらうちの息子は…）
ギチッ
ギチッ
パツッ
トロ…


「まったく…今回だけよ…」
ぼろんっ♡
「うわぁぁ！
ママすごいエロい身体
してるよぉ！おちんぽみるく
吐き出させるための身体してる
よぉ！！」
「こらっ！おちんぽが喜ぶようなこと言うんじゃありません！！
下のお口から直接飲ませてあげてもいいのよ！？」
ぶるるんっ♡
「ママの方がノリノリじゃないかぁ…」


「じゃあこの中にザーメンぶちまければいいのね？」
「うん！思う存分だしてね！！」
「お腹壊しても知らないわよ？ママはもう制御できませんからね！」
「お願い！あと片付けはしっかりするから気にしなくていいよ！」
「あんたもおちょこでもお箸入れでも持ってきておちんぽシゴきなさい♡オスの惨めなちんぽみながらシコると優越感でいっぱい濃いの出せるから♡♡♡」
アハッ
ブルッ
ぷるんっ
ぷるんっ


「あら？あんたもジョッキ？こんにゃくでもつめてオナホにでもするの？♡」
「うぅ…でもこれしかなかったから…しょうがなく…」
フーッ
フーッ
「私はあんたのそういう負けず嫌いなところ嫌いじゃないわよ♡」
「ほらほら♡もっと必死にシコシコしなさい♡私が一回射精する度にあんたは10回ぐらい射精し続けなきゃ到底敵わないんだから…♡」
シコシコ
シコシコ
シコシコ


「おっっ♡♡くるっ♡♡♡せーしのぼってくるっ！
息子のオナニーみていつもより濃いザーメン
コキ出しちゃうっ♡♡」
「あぁっ…ママ…ママ…出るっっっ♡」
「お～♡やっぱり
しょぼいオスチンポの
射精みながらする
アクメは格別だわぁ…♡
しかも実の息子…♡ちんぽは
お父さん似ね…♡」
「うっっ…♡うっ…♡」
パチッ
パチン
ハッ
ハッ
ビクンッ
キュッ
キュッ
ドピュッ
ドピュッ
ガク
ガク
ビクンッ


「ほらほら♡数回の射精でもうこんなにパンパンになっちゃったわ♡
あんたも私の息子なら
これぐらいいつでも
射精せるようにしておき
なさい♡♡♡」
「ママァ…♡僕もうおちんぽ
みるく出せないよぉ…」
もわぁ…
ニャ
ニャ
ハーハー
「弱気より先にザーメン出しなさい♡
まさか人に厚かましくせがんでおいて自分は
射精さないなんてわがまま、
通ると思ってないわよね？♡」
「早く射精しないとこのザーメンジョッキ先に飲んじゃうわよ♡」
「ひぃぃ…僕のおちんちん壊れちゃうよぉ…♡」
とろ…
シコ
シコ
シコ
シコ























































